

小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に関する提案

平成 27 年 10 月 22 日

小田原市総合戦略有識者会議

小田原市総合戦略の策定と推進に当たり、産業界、行政機関、学識者、金融機関、労働団体によって構成された小田原市総合戦略有識者会議では、平成 27 年 6 月からこれまでに 4 回の議論を行ってきたが、その結果を、戦略の体系案に沿って次の通りとりまとめ、提案する。

全国各地の先進事例を踏まえると、地方創生のカギは民間事業者の取組にあることから、小田原市においては、官民連携をさらに進め、民間事業者の力を最大限に発揮していただく環境づくりに力点を置くとともに、本提案を踏まえ、小田原市の総合戦略を策定されるよう要望する。

なお、小田原市の総合戦略を絵に描いた餅にしないために、実現に向けて、「いつ」、「誰が」、「どのように」事業を実施するのかを明確にし、実施の結果を評価し、次のアクションを生み出して行く P D C A のサイクルをしっかりとまわしていく体制を強化し、5 年間継続させていくことを併せて要望する。

1. 安定した雇用を創出する

○ 官民連携による地元企業の支援、創業・事業継承の支援

- 安定した雇用を創出するためには、地元企業の支援が不可欠。関係主体の既存の取組に加え、大企業と中小企業のビジネスマッチング(セミナー開催)、廃業を考えている経営者の事業継承支援や創業を考えている人とのマッチングなど、官民連携体制で地元企業の支援を実施
- 創業支援については、一気通貫で対応できる体制がないことが小田原の弱み。商工会議所、金融機関、行政等の官民が連携した新たな体制を構築し、窓口のワンストップ化、きめ細やかな対応の充実を図るとともに、民間主体による創業支援ファンドを検討

○ 若者をターゲットにした地元就職の促進

- 若年層向けの企業合同説明会の実施

- 地元企業や地元での仕事について知るための情報発信や、職業観を形成するための取組（地元高校生を対象としたインターンシップの実施）
- 自然豊かな地で上質な暮らしと仕事の両立ができることや、一次産業や地場産業など魅力ある職の情報発信

○ 一次産業（農業・林業・水産業）の異分野との連携促進

- 一次産業（農業・林業・水産業）の魅力を高めるため、交流や体験を含む観光分野との連携や、6次産業化の推進により生産性の向上を図るとともに、ワークライフバランスなど働き方についても改善していく
- 農業については、増加する耕作放棄地抑制に向け、農業就職希望者とのマッチングに取組むとともに、農業生産法人設立による高収益化の促進など、職としての魅力を高めていく
- 林業については、エネルギーの域内循環や、エネルギー産業創出の観点からの振興策も検討する
- 水産業については、海、魚などの資源を生かし、漁港や交流促進施設の整備の機を捉え、観光分野との連携に取組む

2. 魅力を発信し、人の流れをつくる

○ 魅力の発信

- 都心からのアクセス、豊富な地域資源、暮らしの上質さなど本市の持つ魅力をうまく伝える方法を再検討。特に、海外からの観光客が増加するなか、海外向けの情報発信を強化

○ 民間による空き家活用の促進

- 現在、市で取り組んでいる空き家バンクを含め、空き家の活用に関する事業（リノベーション促進による魅力ある空き家の創出、定住促進に向けた安価な空き家賃貸を促進など）を宅建協会等関連団体へ一括譲渡するなど、民間による取組を促進

○ 観光の振興

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会後も見据え、この圏域の魅力を創発・発信するとともに、着地型観光の充実に向け、周辺地域と連携した広域的視点による観光DMO（Destination Management Organization）の創設を検討
- 今後増加する外国人への対応として、サイン整備や小田原駅から地下街を含

めた市街地への誘導などを充実させるとともに、回遊バスの運行などにより
まちなかの回遊性を向上させる

3. 子どもを産み育てやすい環境をつくる

○ 気持ちに踏み込んだ、結婚、出産を促す取組

- 結婚や出産の気運を盛り上げるため、恋に関わる映画の撮影、サルサダンスによるきっかけづくりなど、それぞれの気持ちに踏み込んだ事業を実施
- 男女の出会いを創出し結婚につながるきっかけづくりに加え、民間の結婚相談所等と連携した成功報酬型の出会い助成制度の創設など、結果を重視した支援も展開

○ 産婦人科医の確保

- 産む環境づくりにあたっては、産婦人科医の確保が不可欠となることから、市立病院における取組に加え、開業時の整備事業等に対する財政支援、勉学の優秀な高校生に対する産婦人科医育成奨学金の創設などを検討

○ 小田原を誇りに思う教育の充実

- 子どもの頃に、小田原のことをよく知ってもらい、そして、原体験になるような楽しい経験をするなど、小田原を離れても再び戻ってきてもらえるような郷土愛を醸成する教育を推進

4. 活力にあふれ、住み続けたくなるまちをつくる

○ 小田原駅周辺のまちづくり

- 景観を集中的に魅せる場づくり、多くの緑が溢れる空間づくりなど、中心市街地を、美しく感じられるまち、歩いて楽しいまち、訪れてよし住んでよしのまちにする。そのためのランドデザインが必要
- まちなかの空き地を利用した広場（人が集う仕掛けを含む）づくりやお堀端通りのオープンカフェなど、まちにゆとりある環境をつくる

○ 小田原駅以外の駅周辺のまちづくり

- 公共交通を活用した、コンパクトで質の高い、歩いて暮らせる生活圏を形成する。併せて、沿道の緑化や生垣化を促し、上質な暮らしを演出する

○ 健康増進、未病関連の取組の促進

- 高齢化が進むなか、元気な高齢者に活躍いただくという観点から健康増進の取組を進めるとともに、県の未病の取組と連携し、未病関連産業が投資しやすい環境づくり（規制緩和等）を検討する

○ 地域でエネルギーをつくる

- 現在進められている、小田原市エネルギー計画推進会議での議論も踏まえ、民間主導で再生可能エネルギーの事業が展開されている強みも生かし、産業の観点から地域でエネルギーをつくることを検討